



三島カルチャーをつくる人びと

28

しやぎりフェスティバル実行委員会

代表 福田 勝彦氏



プロフィール

1972年三島市生まれ。しやぎりフェスティバル実行委員会代表、芝町青年会事務局長。小学生より「しやぎり」に携わり現在に至る。会員の傍らしやぎりの普及、啓蒙活動を行っている。実行委員会での活動の他に芝町青年会ではしやぎりの演奏・技術指導の他、地域貢献イベントの企画・運営も実施。

夏を告げる故郷の音を未来へつなげるために

三島の祭り囃子「しやぎり」。春先から8月の三嶋大祭りまで、毎晩のように街のどこからか練習の音が聞こえてきます。「しやぎり」の魅力をより多くの人に知ってもらいたいと、2017年にスタートした「しやぎりフェスティバル」。今年で6回目となるイベントを主催する、実行委員会代表の福田さんにお話を伺いました。

「しやぎりフェスティバル」を始めたきっかけを教えてください。復興支援での演奏が立ち上げのきっかけ。2016年に、東日本大震災の復興支援として宮城県南三陸町でしやぎりを演奏する機会がありました。

一通り演奏した後、地元のお店街の人から「とても元気が出るからもう一回やって欲しい」と手を握られました。今までそんなこと二度もないわけですよ。僕はいつもは祭りのBGMとしか思われていなかったもので、それで「しやぎりって良いものなのでは」と気づきました。それなら、しやぎりをきちんと聞いてもらえる場所があってもいいのではないかと、しやぎりをもっと知ってもらいたいと会の若い衆が言い出し、当時お付き合いのあった町内に声をかけて、第1回しやぎりフェスティバルの開催に至りました。

「どのようないから活動を行っているのでしょうか。祭り囃子である「しやぎり」をあえて祭りから切り離して焦点を当てるのが「しやぎりフェスティバル」です。参加する町内は毎年募集し、今年は5町内が参加します。このプロジェクトの目的は、これまで大切に継承されてきたしやぎりが、これから先もずっと続いて欲しいということだけなんです。そのために「周囲の理解」「自己研鑽」「後継者の育成」の3つの柱を掲げています。周囲の理解がなければ、僕たちの活動はすぐなくなってしまうでしょう。そして、適当にやっていたらうさいだだけだと思われてしまいます。大人は子供に指導するだけでなく、真剣に取り組む自分たちの背中を見せることで、子供たちが自らしやぎりをやりたいという思いを抱くようにならないければ続かないだろうという考えからです。

「コミュニティ活性化のための伝統芸能の継承活動」

今年度からは年に一度の公演イベント「しやぎりフェスティバル」だけでなく、地域コミュニティの活性化に向けた伝統芸能の継承活動ができないかという仮説検証型プロジェクトとして、しやぎりを例に活動をしています。三島の印象について教えてください。三島は環境が良いと思います。自然と人が融和している感じがします。土地柄なのか、三島の人はみんなウエルカムなんです。すよね。だから移住者からも居心地が良いと言われますね。また、しやぎりを始めた伝統文化、伝統芸能が外と混ざり合いながら自分たちを保ちながら続いていることが大切だと思います。しやぎりは誰でも参加できる開かれた伝統芸能ですよ。

ふるさとの音

三島のしやぎりを全国へ

三島の人はみんな、しやぎりの音を聞くのが来たって思うんですよ。それで、しやぎりを聞いたら自分の故郷は「ここだと思えるような状態を続けていければいいのではないかと思います。現代まで残してくれた先輩方の思いを未来につなげるという意味もあるし、子供たちにとっても大人にとっても自分たちのルーツが三島であることの象徴の一つとしてしやぎりがあると嬉しいですね。

そして、しやぎりと言ったら「ああ、三島のしやぎりね」と全国の人に思ってもらえるようになりたいと思います。

生まれた横のつながり

活動を続けて、他の町内との横のつながりができました。しやぎりは各町内で保存会を組織していますが、他の町内との関わりはこれまでほとんどありませんでした。他の町の演奏を聞いて、いいところを取り入れたり、会話もできたりとコミュニケーションが生まれました。

今年の三嶋大祭りでは、当番町の緑町の山車を引くお手伝いに僕たち芝本町が行きました。こういう助け合いが容易にできるようになったのは、狙っていたわけではないですが、大きな効果のひとつだと考えています。

「福田さんにとって「しやぎり」はどんな意味があるのでしょうか。僕は芝本町で小学生の時から40年以上にわたってしやぎりに携わっていますので、年間スケジュールのベースがしやぎりなのが当たり前になっています。

三島のしやぎりは全国的に見ても特徴的な祭り囃子です。箱根の麓で宿場町として栄えた三島は、東西の文化が入り混じる場所でした。それがしやぎりにも現れています。曲名は江戸の葛西囃子とほとんど同じです。ただし、太鼓、篠笛、摺り鉦(すり

がね)と使う楽器は同じですが、曲調や楽器の構成は全く違います。葛西囃子は摺り鉦が一人です。三島のしやぎりは摺り鉦が大勢いるのが珍しいですね。しかも三島の摺り鉦は大きくて、これは京都の祇園囃子の影響を受けたとも言われています。「しやぎり」と言う言葉は長崎くんちや岡山の鴻八幡宮祭はやし、滋賀県の長浜曳山祭りなどでも使われています。でも、曲調はゆっくりの祭り囃子ですね。三島のしやぎりはテンポが早く摺り鉦中心で、音が大きいのが特徴です。

三島のしやぎりは全国的に見ても特徴的な祭り囃子です。箱根の麓で宿場町として栄えた三島は、東西の文化が入り混じる場所でした。それがしやぎりにも現れています。曲名は江戸の葛西囃子とほとんど同じです。ただし、太鼓、篠笛、摺り鉦(すり



「しやぎりフェスティバル」の一幕 大音量の競り合いの中での伝言ゲーム

しやぎりフェスティバル 実行委員会



https://www.facebook.com/shagiri.fes/

三島カルチャーをつくる人びと」は、「三島の文化応援プロジェクト」が、三島周辺に拠点を置く企業や三島の文化に関わる方々に、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所／生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等。詳しくは下記のwebサイトをご覧ください。